



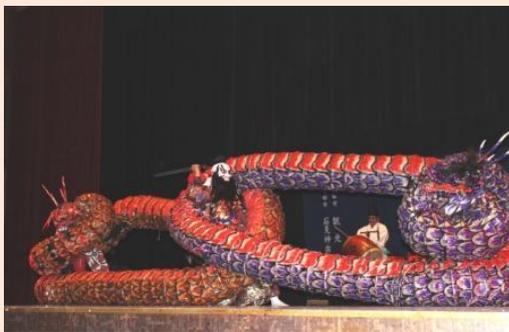
大使からの活動報告(2015年6月)
 石見神楽公演・日本国練習艦隊のグ
 アテマラ寄港他



2015年6月28日
 在グアテマラ日本国大使館
 特命全権大使 川原 英一

■日・中米外交関係樹立80周年記念・石見神楽公演

6月1-2日の両日、グアテマラ国立劇場で、日本外務省大型文化事業として、益田市の石見神楽神和会による石見神楽公演があり、恵比寿(左上写真)、大蛇(おろち)の二つの演目が演じられました。



お祭り気分を盛り上げる
 笛・太鼓と謡い、きらびやかな伝統衣装の恵比寿様(左上写真)によるユーモラスな舞、会場の観客・子供と一体になった動きに観客は大喜び、また、大蛇公



演では、ダイナミックで勇壮な大蛇と素戔鳴尊(すさのおのみこと)との闘いのシーン(左写真)が圧巻でした。初めて見た観客は大変な興奮の中、興味深く観劇していました。舞台の幕が引けて、演技をされた益田市神和会の皆様が舞台に再び出て来られると、観客全てが立ち上がり、大きな拍手が何度も巻き起こり、大成功のうちに公演は終了致しました(左下写真)。



今回の益田市石見神楽神和会による公演は、3年前のマイアミを含む米国南部での海外公演に続くものです。当時、当方は、在マイアミ総領事を勤めており、同じ石見神楽公演をご覧になった地元の方々が大絶賛をされたことから、日本と中米諸国との外交樹立80周年の機会に改めて公演をお願いしましたところ、石見神楽神和会の御快諾を得ました。

グアテマラが最後の公演となった今回の中米4カ国海外公演は、神和会の創設40周年と重なり、また、海外公演はこれで22カ国になりましたと、三原・神和会会長(右横写真左端の方)からお伺い致しました。公演終了後の大使館主催レセプション会場に来られたペサロッソ文化スポーツ大臣(右写真:中央の方)は、石見神楽公演は、とても素晴

らしいと高く評価されました。この機会に、ペサロッソ文化スポーツ大臣(右写真:中央の方)は、石見神楽公演は、とても素晴らしいと高く評価されました。



らしい、大変に感銘を受けた、との御感想を述べておられました。

■NISSANピックアップ・トラック新車販売式典への出席

6月9日、当国での日産ピックアップ・トラック(NP300フロンティア)の新車販売式典に当方が招かれ、御挨拶をさせていただきました。当国での日産車販売は、Excel Automotriz が2009年から独占販売しており、昨年実績は、月143台の日産の新車を販売し、三菱自動車の当国販売も同じグループで扱っていると伺いました。フォンセカ(Fonseca)総支配人のお話では、今回新たに販売されるのは、メキシコ日産工場生産のピックアップ・トラックを輸入しているとのことでした。悪路をものもしない優れた設計、耐久性に優れたピックアップ・トラックなので、今後、当国で人気車となりそうです。



■日本国練習艦隊のグアテマラ寄港

6月25日から28日迄、日本国練習艦隊の13年ぶり3度目の当国寄港がありました。日本とグア



テマラ及び中米各国との外交関係樹立80周年を記念した、友好・親善活動の最大の目玉事業となりました。中畑康樹司令官(海将補)率いる同練習艦隊旗艦「かしま」をはじめとする3隻、実習幹部169名を含め約700名の乗組員の方々による当国訪問でした。

日本国練習艦隊の当国受け入れについては、当国関係者と周到な事前準備が進められ、寄港期間中の一連の練習艦隊寄港関連行事(25日午前からのケツアル港

での練習艦隊寄港歓迎式、同午後、当国太平洋海軍基地訪問・献花、練習艦内部のメディア等への特別公開、同日夕からの当国閣僚・地元有力者・文化省次官・スポーツ省次官、及び海軍次官を始めとする当国軍関係者など多数お招きしての艦上レセプション、翌26日の当国海軍関係者とのスポーツ交流、26日夜の首都グアテマラ市にある国立劇場での音楽隊・和太鼓チーム公演行事等)が、成功裡に実施されました。





寄港日の6月25日は、朝から晴天で、35度を超える大変な暑さの中、港での行事がありました。艦隊寄港受入れ関係者の皆さんが、元気に最後までそれぞれの持ち場でご尽力して頂き、非常に立派な練習艦隊寄港歓迎式典となりました。歓迎式では、イダルゴ国防省海軍担当次官以下、当国国防省音楽隊、海軍アカデミー学生、海軍関係者ら多数が迎える中、中畑練習艦隊司令官他実習幹部169名が元気に港に降り立ちました。同歓迎式には、日本人学校教員・児童生徒、在留邦人の方々による日本国旗による歓迎と児童からの花束贈呈もあり、中畑艦隊司令官以下乗組員の皆様に大変に喜ばれました。



歓迎式典終了後、練習艦「かしま」での海軍担当次官と当方への栄誉礼(左上写真)、日本人学校関係者・在留邦人、海軍関係者らへの艦内特別公開がありました。また、中畑司令官主催の昼食懇談があり、イダルゴ海軍担当次官、海軍総司令官らと練習艦隊の艦長3名、首席幕僚らと当大使館関係者との昼食懇談が、終始、楽しい雰囲気の中でありました。イダルゴ次官から、80周年の機会に海上自衛隊練習艦隊の寄港をお迎えできたことは、大変に光栄であること、「かしま」艦内施設の立派さには強い印象を受けたこと、艦隊寄港により、日本とグアテマラとの良好な関係が一層強化されることを期待する旨発言がありました。当方から、練習艦隊のグアテマラ寄港を大歓迎します、今回の外交関係80周年の機会に練習艦隊の寄港が実現できるよう御尽力頂いた全



ての関係者、特に、中畑司令官には深く感謝を申し上げます。練習艦隊乗組員による当国でのスポーツや音楽交流(左右は、国立劇場での公演写真)での大活躍を期待、



また、当国の古都遺跡視察を通じて見聞を広めて頂きたいと申し上げました。同25日夕から、練習艦隊旗艦「かしま」艦上レセプションが開催され、教育大臣(左上2

番目の写真、右から2番目の方)、デル・バジェ大学学長、スポーツ次官、文化次官、内務省・麻薬取締次官、海軍次官、他海軍関係者、地元政財界有力者らが多数参加しました。また、艦上レセプ



ションでの音楽隊演奏、日本酒、和食によるおもてなしを皆さんが楽しんでおられました。中畑司令官から、日本とグアテマラ外交関係樹立80周年の機会にグアテマラを訪問できたことは誠に喜ばしい、160日にわたり12カ国寄港する練習航海であることなど披露され

た。当方から、かねて念願の練習艦隊の当国寄航が、関係者の御尽力、及び中畑司令官の決断により実現したことに対して深い感謝を申し上げるとともに、寄港の機会に日本とグアテマラの友好・親善関係が一層深まることを期待すること、練習艦隊乗組員には、スポーツや音楽交流、さらには、当国歴史遺産の視察を通じて、見聞を深めて頂ければ幸いのご挨拶を申し上げます。今回の練習艦隊寄港関連行事、グアテマラ主催行事での交流活動を通じ、当国関係者との心の絆が大いに深まり、日・グアテマラ関係の向上に大きな足跡を残して頂いた中畑司令官以下の艦隊関係者に対し、深く感謝を申し上げます。

◆西田擁平さん(写真家)の来訪



西田さんは、2009 年以來、毎年のようにグアテマラを訪問して、高地少数民族の方々をポジフィルム写真でとり続けられておられます。6 月 3 日午後、西田擁平さんに当館を御訪問頂きました。今回は、5 回目の訪問で、2 週間の滞在期間中に、高地少数民族を訪ねて回られること、また、今年の外交関係樹立 80 周年記念行事の一環として、6 月から 1 月間、アンティグアで写真 40 数点を出品した個



展を開いて頂けることなどお伺いをしました。どうして、高地少数民族なのですか、との当方からの質問に対して、昔の東京の子供達の生き生きとした顔と当国高地少数民族の子供達の顔が、重なり、共通したものがあり、とても心惹かれること、当国高地民族の子供達にも

日本人同様に蒙古斑があります、との興味深いお話がありました。

毎回当国に来られる度に、あちこちの山岳少数民族の村を訪ね、まず長老の家へご挨拶をされ、同じ村で村民と生活を共にしながら、子供達や住民の顔の表情を写真に納めておられるそうです。これまでに立派な写真集をいくつかお出しになっています。自らを食と文化の料理人と称され、ラジオ番組のパーソナリティとしても活躍されています。今後のご活躍が注目されます。(左上写真:写真集の表紙、真上写真:写真集の一部)

□帰国協力隊員との懇談(関・木村隊員)



2 カ年の活動を終えて、7 月初めに御帰国予定の関、木村両隊員と懇談する機会がありました。関さん(下の写真右端の方)は、高校の家庭科の教諭出身の方で、栄養士として、トニカパン県教育事務所に 2 年間所属をされて、地域の栄養改善活動に取り組みました。木村さん(左写真左端の方)は、サン・マルコス県教育事務所に 2 年間所属をされて、小学校での算数教育の向上に取り組みました。

お二人とも、教育現場での大変にユニークな取組みをされ、関隊員は、小学校での栄養改善調理

実習に子供達だけでなく、母親達の参加を得られたこと、軽食(おやつ)改善コンクールを地元40校の学校の児童・母親の参加を得て実施されて、評判の良い料理を、フェイスブックにのせて、広く普及するよう図っておられました。

木村隊員は、日本が協力して作成し、2007年から導入された小学校国定算数教科書を使つての算数教育の向上・普及に御尽力をされました。当初、学校に算数の教科書はあっても、教員が使用せず、自分の従来の教え方をする先生方が多くいたので、先生の性格・タイプ別にわけて、個別に異なる働きかけを行われたこと、また、良い学習方法で教えれば子供達の理解が格段に向上することを分かってもらふよう工夫をされて、先生方が積極的に新たな取り組みに参加するよう尽力されました。その結果、今年初めからは、同隊員が直接に指導された4つの学校の先生達がリーダーとなり、進んで、他の15校の小学校の先生方に算数の教授の質を高める授業研究が、どんどん実施される状況にまでなったとの報告がありました。

また、こうした両協力隊員の意欲的活動を支えてくれた県教育事務所のカウンターパートに大変に恵まれていたとお二人からお聞きしました。この国の大きな課題である栄養改善、子供の教育の向上に向けた両協力隊員の活動は、大変に素晴らしいものであり、心から感謝を致します。(了)